

## 新天地ニュージーランド

校長 関田 晃

グローバル化先進校としての取組を進める本校が、夏休みの生徒海外研修地として、従来のオーストラリアに加え、新たにニュージーランドを選定したのは、昨年4月のことです。この背景には、本校の海外研修に対するさいたま市からの補助金が、昨年度より従来の60万円から460万円に増額された事情があります。これによって本校では、46名の生徒に対して一人当たり10万円という多額の補助ができるようになりました。来年度へも続く、本校の特徴的な国際交流活動の礎となる事業です。

一方で、それまで10名程度の参加だったオーストラリア・ケアンズでの研修だけでは、46名という生徒を一度に受け入れるのが困難であることは明らかでした。そのため、急いで新たな研修先を開拓する必要に迫られました。しかし、8月に実施する海外研修の候補地を、4月になってから開拓するというのは、これもまた困難なことでした。しかも、相手国の学校教育事情、とりわけ日本の夏休みに相手国の学校は学期中である必要があることから、できるだけ南半球の国（日本と季節が逆なので）が望まれましたが、十分な時間を掛けて検討する余裕がありませんでした。さらに、渡航時間や泊数を考えると、やはりオセアニアが適当だろうと考えられました。

そんな時、本校英語科教員で国際理解教育推進委員でもある小川冬樹教諭から、突然の申し出がありました。それは、「ニュージーランドで良ければ、自分のこれまでの国際交流の経験を活かして、20人前後の派遣はアレンジできると思います、すでに打診もしてある。」というものでした。こうしてニュージーランド研修に向けた準備は、4月からの極めて短期間に為されました。ひとえに小川教諭の尽力に感謝するものです。

こうした経緯で実現したニュージーランド研修も、今年で2回目となりました。訪問校は昨年同様にカиаポイ・ハイスクールです。南島のクライストチャーチ近郊にある人口1万2千人ほどの町カиаポイにあります。昨年、私も現地に海外研修の様子を見に行きましたが、人間より羊の方が多いというニュージーランドらしい、のどかな田舎町です。敷地に余裕があるため、校舎はほぼ全て平屋建てです。制服があるため、生徒の様子も落ち着いて見えます。実際、参加した本校生徒諸君は身をもって知っているように、現地の生徒もホストファミリーもみな親切で、心地よい学校生活とホームステイを体験できたことと思います。

ところで、クライストチャーチは2011年2月22日に大地震（カンタベリー地震）に見舞われ、多くの犠牲者を出しました。東日本大震災が起こる半月ほど前のことです。クライストチャーチの街は、まだ復興の緒に就いたばかりのように見受けられました。我が国の東北地方もそうですが、完全な復興には長い年月が必要だろうと思います。自国で大きな被害を受けた私たちは、だからこそニュージーランドの人々の苦しみも共有できるし、ともに力を合わせて苦難を乗り越えていこうという気持ちにもなります。

今回のニュージーランド研修に参加した皆さんは、この体験をスタートにして、これまで以上にグローバルな視野を養い、世界中で起こっている様々な問題に目や耳を向け、文化や国籍の違う人たちと手を携えて、平和でより善い世界を構築していくことを心掛けて欲しいと思います。皆さんが大きく成長していくことを期待しています。